

FFCテクノロジー  
活用現場レポート

ミズノ・ソイルプロデュース  
**水野 茂 様**  
(愛知県 愛西市)

花を見ると誰もが優しい気持ちになり、心が癒されるのではないのでしょうか。しかし、野菜や果物など口にする植物以上に多くの農薬を使って育てられることが少なくありません。そのような中、長年培われた土作りの技術にFFCを活用し、完全無農薬でユリを育てられている水野様をご紹介します。



FFC実践現場

①水浸け



土がとても滑らかでまるで足湯みたい

圃場にFFCエースを反あたり12袋撒布し1~4ヶ月ほど水浸けを行います。こうすることでよりFFCの効果を引き出します。

②球根浸漬



FFC導入以前、ここだけは農薬を使用していました

一晩寝かせたFFCピコパワー5,000倍希釈水に球根を1時間浸漬します。

この5,000倍水は球根浸漬に使ったモノ！ムダなく活用します

③芽出し



FFCピコパワー5,000倍希釈水で水分調節した土を入れた箱に球根を並べます。これを約1ヶ月冷蔵庫に入れて芽出しをします。



約1ヶ月でこのように芽と根が出てきます



冷蔵庫



④定植



圃場に反あたり3袋程度のFFCエースを球根のまわりに追加し、定植します。

エースの量は土の状態を見て調節します

畝ごとに生育がピシッと揃っています

⑤生育中



生長期の1ヶ月はFFCピコパワー10,000倍希釈水、その後出荷までは5,000倍希釈水を1週間に1度の間隔で葉面散布します。

⑥出荷



FFCピコパワーの5,000倍希釈水を水揚げさせてから出荷します。

FFC活用後の変化

- ・花の色が鮮やかになった
- ・香りがまろやかになった
- ・日持ちするようになった
- ・全てのつぼみが咲くようになった
- ・葉の表面のワックス力が強くなった

まめ知識 ユリの切花を長く楽しむには!?

- ・よく切れるはさみを使って、水切り(水の中で切る)をします
- ・葉が水の中につからないようにします
- ・気温が高い時期、日中は花瓶に氷を入れて水温を下げます

こだわり



水野 茂 様

「FFCは、基本の土作りをしてから活用することによって、より高い効果が見えてきます。植物の生長に欠かせない窒素にはアンモニア態窒素と硝酸態窒素があり、硝酸態窒素の状態では吸収されれば、カルシウムなどの微量元素も植物に吸収されやすくなるため、色つやが良く食味もよいものができます。良い状態の土にはもともとアンモニア態窒素を硝酸態窒素へと変える微生物が存在していますが、FFCを活用すれば土中の微生物のバランスを整えて、その力をさらに高めることができます。そして、微生物のバランスを整えるということは、悪い菌が突出して増殖するのを防ぎ、結果としてある程度の病気の発生を抑えることができます。

「MPS-Aランク」「FAJオーガニックコレクション」認定

MPS(花き産業総合認証)



MPS(花き産業総合認証)は世界水準の認証で、花き生産における環境の配慮が世界的に高いレベルで認められたことの証です。

FAJ(フラワーオーガニックジャパン)オーガニックコレクション



有機JASの基準を参考にFAJ(フラワーオーガニックジャパン)が認定。化学肥料や化学農薬の使用を避けることを基本として、環境負荷をできる限り低減した栽培方法で生産された花の証です。

このほかにもFFCが土中で及ぼす効果はたくさんありますが、こうしてできた良い土は、良い作物を育ててくれます。そうすると、子供たちもすすんで手伝ってくれます。農業や化学肥料を主体とし、どんどん土の状態を悪化させる農業にこれからの世代の人たちがはたして魅力を感じてくれるでしょうか。子や孫が魅力を感じ、すすんで継いでくれる、そんな豊かで健全な農業を続けていきたいです」とお話をいただきました。